

経済学史 (2019年度前期)

第7講その1: ケインズの経済学その1

担当者: 佐々木 啓明*

*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

——ケインズの『一般理論』——

- ジョン・メイナード・ケインズ(1883–1946)

代表的著書は『確率論』(1921),『貨幣論』(1930),そして『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936)

イギリスのケンブリッジで生まれる。父はケンブリッジ大の経済学者であるジョン・ネヴィル・ケインズ,母はケンブリッジ市長を務めたフローレンス・エイダ・ケインズ。

イートン・パブリック・スクールからケンブリッジ大学へ入学。

卒業後,インド省に勤めるが,ケンブリッジへ戻り研究をする。その後,業績が認められて大蔵省と関わるようになる。

第1次大戦終結時のパリ講和会議(1919)では,イギリス代表ロイド・ジョージの側近となる。

このとき、ドイツへの賠償請求額が苛酷すぎるとして、この職を辞する。
→ 『講和の経済的帰結』(1919)という書物を記し、世界的なベストセラーとなる。

• トランスファー問題

国際的トランスファーが、交易条件(輸出価格/輸入価格=1単位の輸出財で何単位の輸入財を獲得できるか)にどのような影響を与えるのかという問題を巡って、ベルティル・オリーン(1899–1979)とケインズが論争した。

ドイツに課せられた賠償金は、ドイツ経済にとってどれほどの負担になるのか?

ケインズ: ドイツが賠償金を支払うためには, 輸出を増やし輸入を減らさなければならない. そのためには, 輸入財に対して輸出財の価格を下げなければならない. その結果, ドイツの交易条件は悪化し, 支払による直接負担以上の負担が課せられる.

オリーン: ドイツが輸入税を引き上げれば, 外国財に対する需要が自動的に減少する. 賠償の支払いは受け取り国の需要の増加につながる. 需要増大の一部はドイツの輸出に向けられる. したがって, ドイツは交易条件を悪化させずに輸入を減らして輸出を増やすことができる.

一般には, 供与国において輸出財についての限界支出性向が受け入れ国より高ければ, トランスファーは供与国の交易条件を悪化させる. その反対に, 供与国において限界支出性向が低ければ, 交易条件は改善される.

- 失業の理論——新古典派の考え方

右下がりの労働需要曲線と右上がりの労働供給曲線の交点で賃金と雇用量が決まる。

労働需要曲線は、企業の利潤最大化より得られ、労働供給曲線は、労働者の効用最大化より得られる。

- 自発的失業

何らかの理由で賃金が高止まりすると、失業が発生する。

現に雇用されている労働者が、自分たちの既得権益を守ろうとした結果、他の労働者の雇用機会を奪っている。

●失業の理論——ケインズの考え方

労働需要曲線が右下がりとなることは認める。しかし、現実の労働供給曲線は、現行賃金で働く意思のある人が全員雇われるまで、つまり完全雇用に達するまでは水平で、完全雇用到達後に右上がりとなる、と考えた。

●非自発的失業の発生

現行賃金で働く意思があるにもかかわらず、労働需要が少ないために失業してしまうこと。

●有効需要の原理

労働需要曲線の位置は、財の生産量が決めている。財の生産量は有効需要によって決められる。